

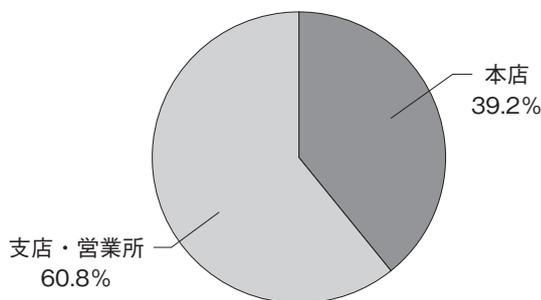
第15回(2019年)補聴器市場調査アンケート集計結果(2019年1月~12月)

本調査は、補聴器業界の現状を確認し、業界の発展に役立てることを目的として、1995年から開始され、今回が15回目となります。調査内容は1年間(2019年1月~12月)の補聴器販売実績について1店舗単位で回答を得るものです。

調査対象店舗は2019年12月末日現在の協会加盟店957店舗、2020年1月に調査を実施し、郵送による無記名回答で306店舗(回収率32.0%)の回答がありました。前回(第14回)の回答数は311店舗(回収率32.1%)、ほぼ同数の回収が得られました。

Q1 回答店の区分

<アンケート回答店が本社機能を有しているか、または支店・営業所の機能を有しているかを問う設問>



- 回答の内訳は、本店120件、支店・営業所186件の全306件であった。

Q2 所属支部別内訳

<アンケート回答店が何れの支部に所属しているかを問う設問>

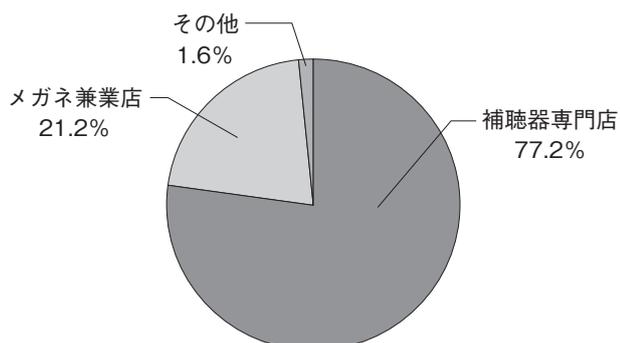
所属支部	加盟店数*	回答数	回答率
北海道支部	43	14	32.6%
東北支部	82	30	36.6%
関東支部	292	80	27.4%
北陸信越支部	86	38	44.2%
東海支部	117	34	29.1%
近畿支部	139	46	33.1%
中国支部	50	18	36.0%
四国支部	37	12	32.4%
九州沖縄支部	111	32	28.8%
無回答	—	2	—
全体	957	306	32.0%

*2019年12月末日現在

Q3 業態別内訳

	加盟店数*	回答数	北海道支部	東北支部	関東支部	北陸信越支部	東海支部	近畿支部	中国支部	四国支部	九州沖縄支部	未回答
補聴器専門店	646	236	14	24	60	34	25	32	14	9	22	2
メガネ兼業店	176	65	0	6	16	4	9	14	4	3	9	0
その他	135	5	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0
無回答	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	957	306	14	30	80	38	34	46	18	12	32	2

*2019年12月末日現在



- 販売店が補聴器専門店またはメガネ兼業店、その他業態(時計・宝飾・福祉用具などの兼業店)の何れかを問うもので、多くの設問で分析の基準となっている。
- 回答数の内訳は補聴器専門店が236件(77.2%)、メガネ兼業店が65店(21.2%)、その他業態が5件(1.6%)の合計306件となった。

Q4 (1) 販売台数

地域別平均販売台数（一店舗あたりに換算）

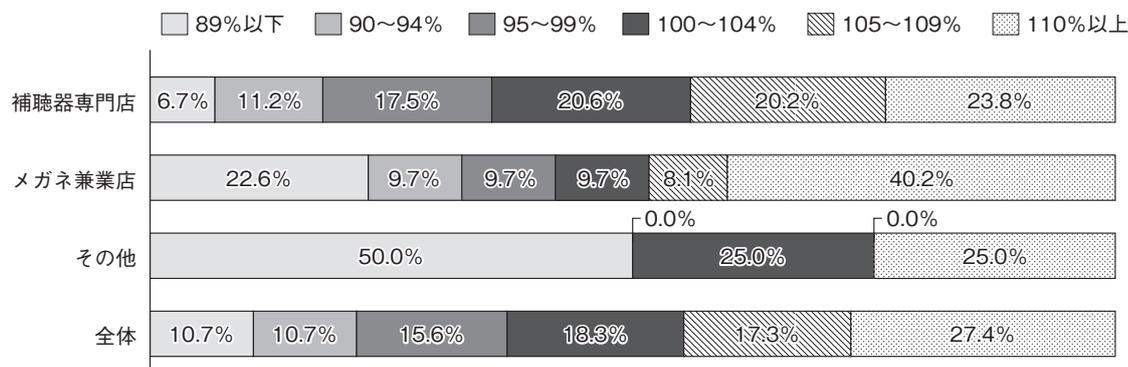
…各地域で最も販売台数の多かった月

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	(年合計)
全国	21	22	27	24	23	27	26	24	28	27	25	25	299
北海道支部	19	20	28	20	19	30	23	21	27	22	21	19	269
東北支部	21	23	28	27	28	25	26	25	29	29	27	25	313
関東支部	21	21	27	26	22	27	27	24	30	32	25	27	309
北陸信越支部	22	17	22	20	19	21	21	19	21	20	20	21	243
東海支部	14	16	19	20	18	20	22	21	20	23	19	20	232
近畿支部	29	30	36	36	31	35	36	32	36	38	35	36	410
中国支部	24	26	30	25	25	26	25	25	30	27	26	29	318
四国支部	15	13	19	15	19	20	16	20	23	18	18	20	216
九州沖縄支部	28	29	37	31	30	35	35	30	37	33	33	32	390
(月別合計)	193	195	246	220	211	239	231	217	253	242	224	229	

※台数(有効回答数) 合計÷有効回答数(全体計290店)

- 補聴器の販売動向を知るもので、地域別に集計した。
- 耳の日など催事関連月や、今年は10月の消費増税前後も全国的に上位売上月となっている。
- 今回の調査で得た年間販売台数は90,227台であり、これをもとに {回答販売台数の合計(90,227台)} ÷ {Q4の有効回答数(290店)} × {当協会加盟店数(957店)} を計算すると、297,749台となる。よって当協会加盟店の2019年補聴器総販売数は約29万台超と推計される。
- 一般社団法人日本補聴器工業会(日補工)より2019年補聴器総出荷台数は613,089台であるとの報告がなされており、当協会の販売台数が推計297,749台であることから、当協会加盟店の販売台数は全体の約48.6%であると推計される。

Q4 (2) 販売台数の前年比較



- 販売台数の前年比較を見ると、維持または増加していた店舗は全体の63.0%であった。前回調査では52.9%であった。

Q4 (3) 販売台数のうち、医師から紹介された方への補聴器販売台数の割合

	全国	北海道支部	東北支部	関東支部	北陸信越支部	東海支部	近畿支部	中国支部	四国支部	九州沖縄支部	無回答
補聴器専門店	29.8%	57.5%	23.3%	22.5%	23.9%	16.4%	46.3%	45.7%	60.7%	16.4%	0.0%
メガネ兼業店	20.3%	0.0%	25.3%	12.1%	73.1%	5.6%	22.0%	51.6%	8.1%	13.8%	0.0%
その他	25.9%	0.0%	0.0%	26.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	29.1%	57.5%	23.3%	22.0%	25.1%	15.6%	44.5%	46.2%	58.0%	16.2%	0.0%

- 今回から集計方法を変更した。*1
- 医師からの紹介による販売台数の割合は全体では29.1%であった。(有効回答数234店)

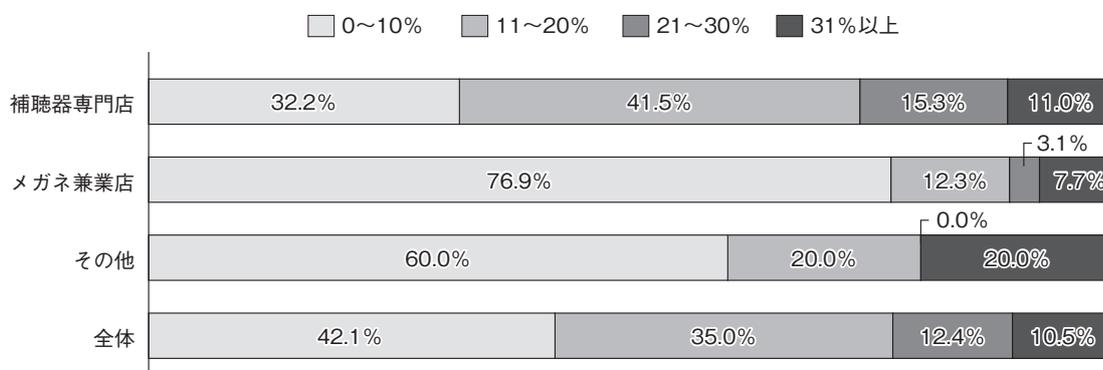
Q4 (4) 医師からの紹介のうち、診療情報提供書をお持ちになられた方の割合

	全国	北海道 支部	東北 支部	関東 支部	北陸信越 支部	東海 支部	近畿 支部	中国 支部	四国 支部	九州沖縄 支部	無回答
補聴器専門店	34.3%	65.3%	58.6%	29.4%	22.5%	23.2%	38.2%	65.0%	58.9%	12.6%	0.0%
メガネ兼業店	21.9%	0.0%	19.8%	21.1%	67.5%	5.9%	20.9%	50.0%	3.3%	13.4%	0.0%
その他	35.0%	0.0%	0.0%	46.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	31.5%	65.3%	46.9%	28.6%	27.7%	18.7%	32.4%	61.3%	43.7%	12.4%	0.0%

※販売台数/有効回答店舗数(本設問では292店)

- 今回から新設した設問。回答で得られた%を単純平均した値となる。
- 業種ごとに差が見受けられるが、全体では医師紹介のお客様のうち31.5%が診療情報提供書をお持ちになっている。

Q4 (5) 販売台数のうち、総合支援法による補聴器販売台数の割合



Q4 (6) 軽・中等度難聴者(児)への補聴器購入助成制度による販売台数について(年間)

	全国	北海道 支部	東北 支部	関東 支部	北陸信越 支部	東海 支部	近畿 支部	中国 支部	四国 支部	九州沖縄 支部
補聴器専門店	1,687台	44台	50台	495台	397台	85台	301台	104台	49台	162台
メガネ兼業店	105台	0台	5台	5台	3台	0台	66台	4台	8台	14台
その他	7台	0台	0台	7台	0台	0台	0台	0台	0台	0台
全体	1,799台	44台	55台	507台	400台	85台	367台	108台	57台	176台

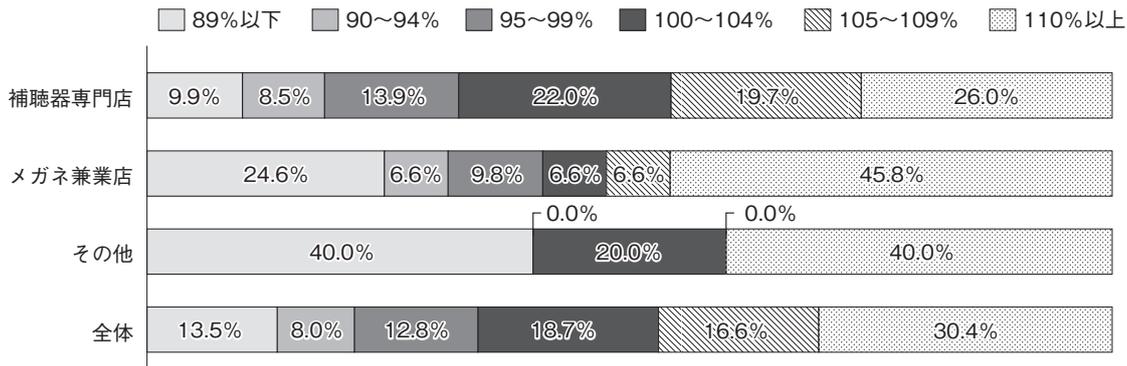
1店あたりの平均販売台数

	全国	北海道 支部	東北 支部	関東 支部	北陸信越 支部	東海 支部	近畿 支部	中国 支部	四国 支部	九州沖縄 支部
補聴器専門店	8.1台	3.7台	3.3台	8.8台	12.8台	3.5台	11.2台	7.4台	5.4台	8.1台
メガネ兼業店	1.9台	0台	1.3台	0.4台	1.0台	0台	5.1台	1.3台	2.7台	1.8台
その他	1.8台	0台	0台	2.3台	0台	0台	0台	0台	0台	0台
全体	6.7台	3.7台	2.9台	7.1台	11.8台	2.6台	9.2台	6.4台	4.8台	6.1台

販売台数/有効回答店舗数(全体計268店)

- 軽・中等度難聴者への補聴器購入助成制度による販売台数は1,799台であり、前回の2,915台から大きく減少した。

Q5 売上金額の前年比較



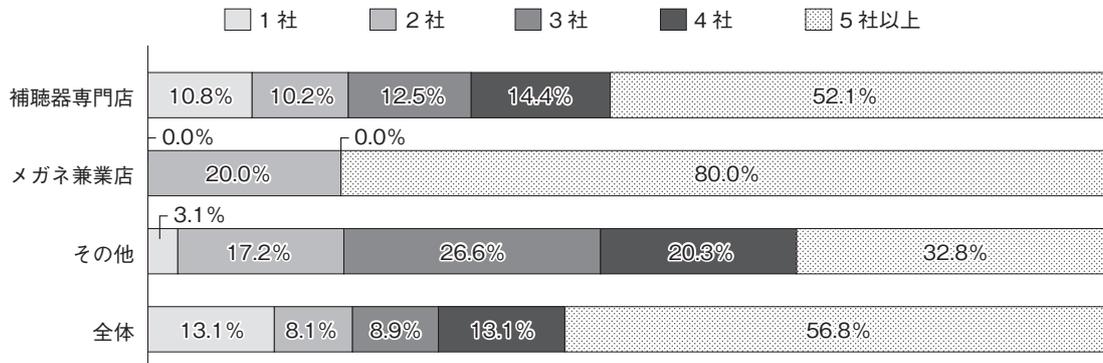
・売上金額の前年比較を見ると、維持または増加していた店舗は全体の65.7%であった。前回調査では60.5%であった。

Q6 補聴器の平均売価について

	全国	北海道 支部	東北 支部	関東 支部	北陸信越 支部	東海 支部	近畿 支部	中国 支部	四国 支部	九州沖縄 支部	無回答
補聴器専門店	15.6万円	19.3万円	15.4万円	15.8万円	16.7万円	18.7万円	13.6万円	14.0万円	17.0万円	15.1万円	13.7万円
メガネ兼業店	18.4万円	—	18.0万円	21.3万円	17.2万円	17.7万円	16.5万円	19.3万円	13.8万円	17.9万円	—
その他	17.8万円	—	—	17.8万円	—	—	—	—	—	19.8万円	—
全体	15.8万円	19.3万円	15.5万円	16.2万円	16.7万円	18.6万円	13.9万円	14.4万円	16.8万円	15.4万円	13.7万円

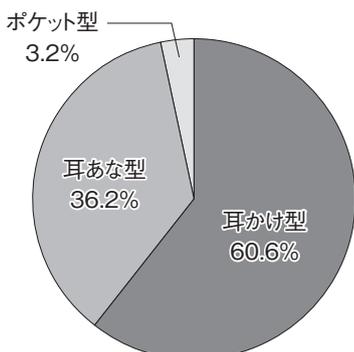
・今回から新設した設問。総合支援法の補聴器を含まない平均売価を尋ねる設問となっている。有効回答数は277件で、回答がなかった箇所は—としている。全国的な平均は15.8万円であり、業態・地域ともに大きな差はなかった。

Q7 取り扱いメーカー数



・全体の56.8%が5社以上のメーカーと取引があり、前回調査の51.8%から微増となった。

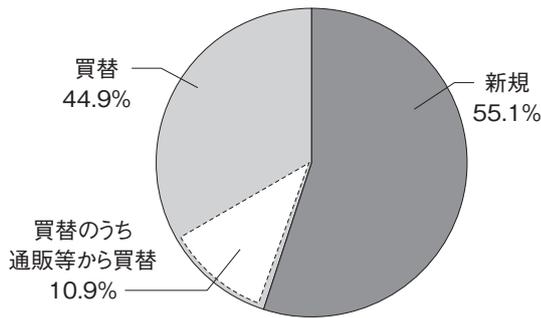
Q8 販売された補聴器のタイプ別台数割合



	ポケット型	耳かけ型 RIC	耳かけ従来型	メガネ型	耳あな型 (CIC)	耳あな型 (カナル)	耳あな型 (フルサイズ)	耳あな型 (レディ)
補聴器専門店	3.5%	23.7%	35.6%	0.0%	8.6%	24.3%	4.2%	0.1%
メガネ兼業店	2.5%	43.6%	21.5%	0.0%	7.2%	21.8%	2.2%	1.2%
その他	3.2%	36.0%	23.2%	0.0%	2.0%	32.0%	3.6%	0.0%
全体	3.2%	28.1%	32.5%	0.0%	8.2%	23.9%	3.8%	0.3%

参考資料：日補工発表の2019年年間出荷統計
 (ポケット型:2.8% 耳かけ型RIC:38.4% 耳かけ従来型:30.4% メガネ型:0.1% 耳あな型(CIC):4.9%
 耳あな型(カナル):15.4% 耳あな型(フルサイズ)4.1% 耳あな型(その他):3.9%)

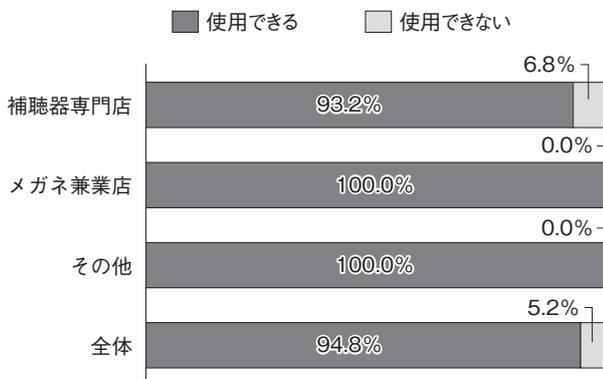
Q9 販売された補聴器の新規/買替の台数割合について



	新規	買替 (うち通販等からの買替)
補聴器専門店	55.7%	44.3% (10.3%)
メガネ兼業店	54.1%	45.9% (13.7%)
その他	41.0%	59.0% (12.4%)
全体	55.1%	44.9% (10.9%)

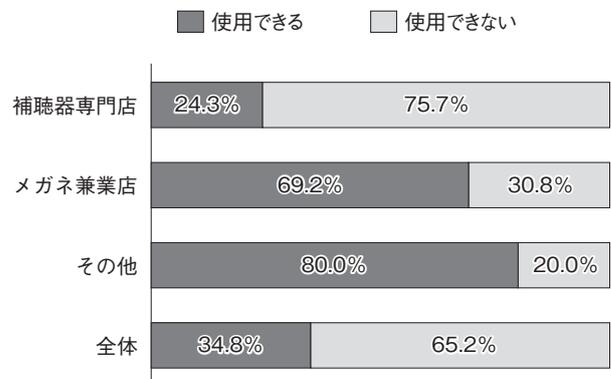
• 販売された補聴器の新規/買替の台数割合は前回調査では新規が49.6%、買い替えが50.4%であったが、今回は新規の割合が増加している。

Q10 (1) 補聴器購入時のクレジットカード使用について



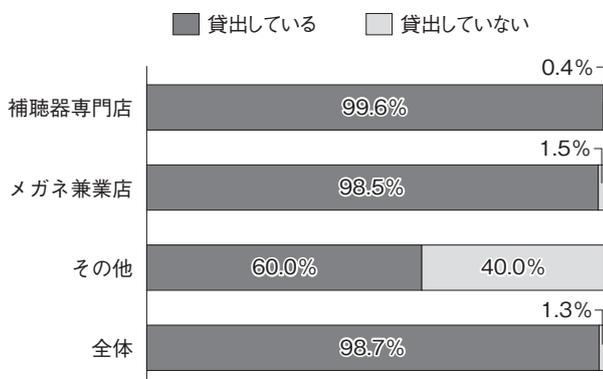
• 全体では94.8%の店舗でクレジットカードの使用が可能で、メガネ兼業店等は100%の店舗で使用可だった。

Q10 (2) 補聴器購入時のスマホ・ICカード等のキャッシュレス決済について



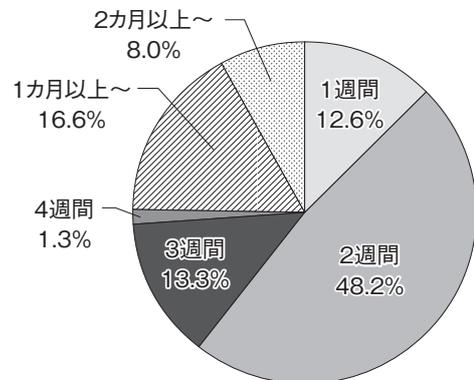
• 今回から新設した設問。業種毎に差が出た結果となった。

Q11 (1) 補聴器の貸出について



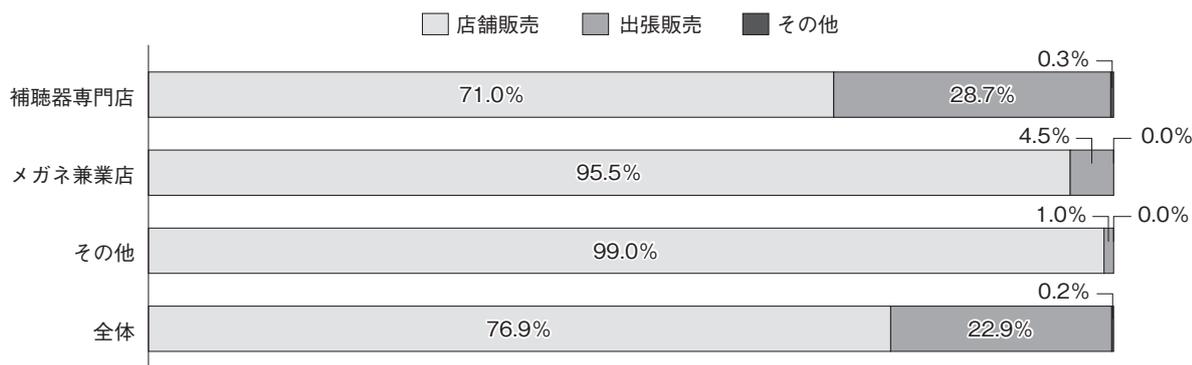
• 補聴器を販売する前に貸出を行っている店舗はどの業態でも多く、全体で98.7%の店舗が貸し出しを行っている。

Q11 (2) 補聴器の平均貸出期間

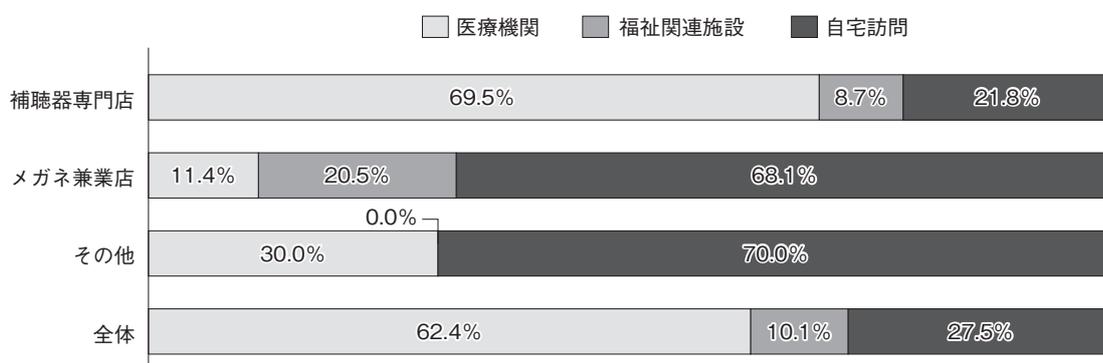


• 貸出の期間については、最も多かった2週間が約半数(48.2%)で、次いで3週間(13.3%)、1週間(12.6%)となっている。前回調査から1週間の比率が半分程度となり、1ヶ月以上の比率が増えている。

Q12 (1) 店頭販売と出張販売の販売台数の割合について



Q12 (2) 出張販売の内訳



・前回調査から大きな変動はなく、店舗販売が76.9%、出張販売が22.9%であった。出張販売の内訳は、補聴器専門店では医療機関が多く、メガネ兼業店やその他業態では自宅訪問が多いといった特徴が見られる。

Q13 調整（フィッティング）のみの依頼について（年間）

	A	B	C
補聴器専門店	12.1件	1.1件	2.4件
メガネ兼業店	5.5件	0.3件	0.7件
その他	4.6件	0.8件	0.2件
全体	10.6件	0.9件	2.0件

- A 他店で購入された補聴器のフィッティング件数（平均）
- B インターネットや通信販売で購入された補聴器のフィッティング件数（平均）
- C A・Bの内フィッティング料をもらっている件数（平均）

・前回調査から他店で購入された補聴器のフィッティング件数は-1.5件と減少し、インターネットや通販で購入された補聴器のフィッティング件数は-4.0件と大きく減少した。フィッティング料をもらっている件数は0.1件増加した。

Q14 (1) 認定補聴器専門店取得状況

	回答数	認定店である	認定店ではない	認定店の申請中	無回答
補聴器専門店	236	83.8%	13.6%	1.3%	1.3%
メガネ兼業店	65	41.5%	46.1%	6.2%	6.2%
その他	5	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%
全体	306	74.2%	21.2%	2.3%	2.3%

・前回調査からあまり変動はなかった。
 ・当協会加盟店のうち認定補聴器専門店の割合は、補聴器専門店が83.8%で最も高く、メガネ兼業店が41.5%、その他が40.0%となっている。

Q14 (2) (3) (4) 認定補聴器技能者の在籍数・販売数、取得状況

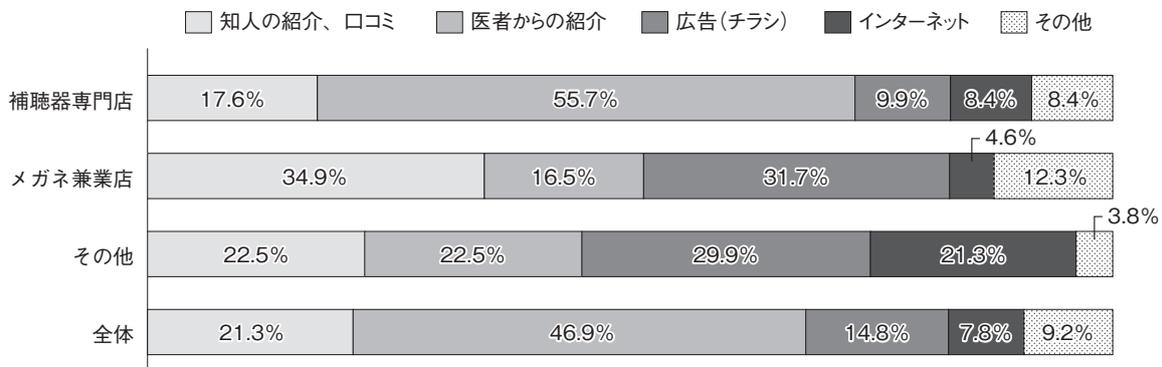
<当協会では全ての加盟店舗での有資格者による対面販売を目指しており、その状況を把握するための重要な設問>

	①	②	③
補聴器専門店	2.5人	63.8%	1.6人
メガネ兼業店	1.9人	78.0%	1.4人
その他	2.8人	96.6%	3.0人
全体	2.4人	65.0%	1.6人

- ① 認定補聴器技能者の在籍数 (平均)
- ② 年間販売台数の内、認定補聴器技能者が販売した台数の割合 (平均)
- ③ 認定補聴器技能者の資格取得中の人数 (平均)

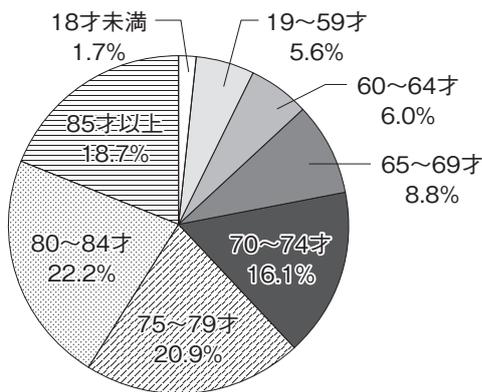
- 認定補聴器技能者の人数は微増であり、資格取得中の人数は前回調査とほぼ同一の結果となった。
- ②は今回から集計方法を変更した。※2

Q15 新規のお客様が来店された動機について



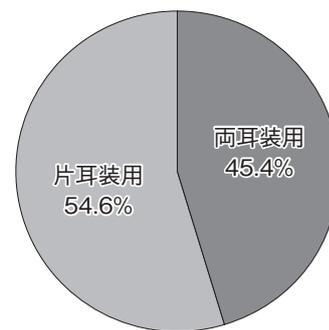
- 新規のお客様の来店動機は業態毎に特色が出たが、全体として医師からの紹介が46.9%と大きな割合を占めた。その他は主に看板を見て、役所からの紹介などが挙げられていた。

Q16 顧客年齢層 (全体)



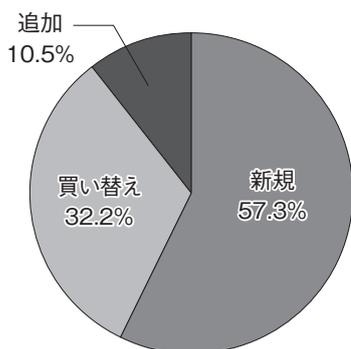
- 前回調査から80才以上の割合が約6%増え、それ以外が微減という結果になった。全体的に70才以上が多く、70才以上が全体の77.9%を占める。

Q17 (1) 両耳装用の割合



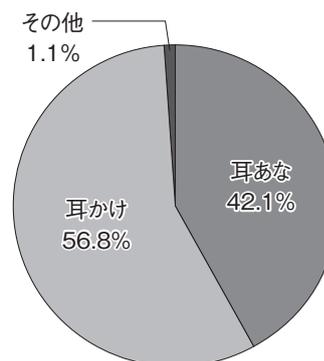
- 前回の第14回市場調査から設問を追加した。両耳装用が前回の41.7%から3.7%増えている。

Q17 (2) 両耳装用の内訳



• 前回調査から新規が 4.5 % 増加し、追加が 3.9 % 減少した。

Q17 (3) 両耳装用の型式割合



• 前回調査から耳かけ型が 4.4 % 増加し、耳あな型が 4.3 % 減少した。

※1 Q4 (3) の計算方法の変更

(各店舗の医師紹介の販売台数の割合) × (各店舗の補聴器販売台数) = 各店舗の医師紹介補聴器販売台数
 (医師紹介補聴器販売台数の区分別合計) ÷ (当該区分の総販売台数) = 当該区分の販売台数の割合

※2 Q14 (2) (3) (4) の計算方法の変更

(各店舗の技能者販売台数の割合) × (各店舗の補聴器総販売台数) = 各店舗の技能者による補聴器総販売台数
 (技能者による補聴器総販売台数の区分別合計) ÷ (当該区分の総販売台数) = 当該区分の技能者販売台数の割合

後 記

加盟店各位におかれましては、2019年補聴器市場調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。新型コロナウイルスの感染拡大は外出自粛など日常生活に多大な影響を及ぼし、加盟店においても感染予防や防止対策、さらには営業自粛など大変な状況に置かれていることと存じます。

2019年の日本補聴器工業会の統計では、補聴器総出荷台数は60万台を超えるなど、堅調な推移を示しました。10月には消費税の増税やそれに伴うキャッシュレス化などが行われたこともあり、今回のアンケートでは質問項目の追加や修正を行いました。追加した項目は、診療情報提供書をお持ちになられた方の割合、補聴器の平均売価、キャッシュレス決済導入についてです。集計からは、実販売台数や売上金額は対前年比で増加しているという結果が得られました。また、キャッシュレス決済に対応している加盟店も全体で34.8%と、変化する時代に対応していることが読み取れます。ここで今回の調査結果と皆様のお店の回答を比較してみると、新たな発見があるかもしれません。

本アンケート結果は厚生労働省などの行政機関や他関係団体にも提供するなど、補聴器業界の発展のため有効に活用させていただきます。また、昨年度改定した「補聴器適正販売ガイドライン」には、品質・衛生管理の項目を追加したところですので、お客様と従業員の皆様の安心・安全のため活用いただければ幸いです。

当協会は引き続き、加盟店およびユーザーにとってより意義のある存在になれるよう尽力してまいります。現在は新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい状況下ではありますが、一日も早い収束を願うとともに、加盟店一丸となってこの難局を乗り越えていきましょう。今後とも皆様のご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(広報委員会)